

□次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。(四十点)

この部分は、著作権の関係で  
掲載できません。

受験番号

受験番号
------

問一 線部 a～e のカタカナを漢字に直せ。

a
b
c
d
e

問二 (A) (B) を補うのに、最も適当な語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

ア 普遍的 イ 盲目的 ウ 活動的 エ 客観的 オ 理想的

A
B

問三 線部①「明確な答え」とあるが、「答え」とは何のことか。文中から二字で抜き出せ。

--

問四 線部②「それだけで十分です」とあるが、筆者がそのように考える理由として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア どの職業を選択したとしても、夢中になれる仕事を見つけると前向きになれるから。

イ 能力的な問題にかかわらず、目指したい職業があるだけで毎日が楽しいと感じられるから。

ウ やりたいことが見つかると、ホルモンの分泌が活発になり、心身の成長に良い影響を与えるから。

エ 一生懸命仕事をするかつこいい大人を見ることで、働くことの尊さを感じられるから。

問五 線部③「他人の目に耐えないといけない」とは、どういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 他人にかつこいいと思われるよう、自制心をもって行動すること。

イ 他人からどう思われようと、最後まで自分の信念を貫くこと。

ウ 自分がどのような存在であるかを、他人の目を通して確認していくこと。

エ 自分と他人とを常に比較し、自分がどんな存在かを認識していくこと。

--

問六 線部④「大人はかつこよく生きて、子どもに憧れられるような存在になりたいものです」とあるが、このような大人になるために必要なことは何か。二十字以内で説明せよ。

--

問七 線部⑤「プロセス」を具体的に言い換えている部分を、文中から四十字以内で探し、最初と最後の五字を抜き出せ。

--

問八 線部⑥「集いて群れず」とあるが、筆者がこのように述べる理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 成熟した大人同士の集まりでないと、お互いの「個」を高めることができないから。

イ 成熟しないまま仲間となれ合う気楽さに慣れると、「個」が育ちにくくなるから。

ウ 共に行動している他人からの影響を受けて、本来の自分の個性が損なわれてしまうから。

エ 他人を頼ることも時には必要だが、最終的には一人で生きていかねばならないから。

--

問九 線部⑦「自問自答の答え」とあるが、見つかった「答え」の具体例が述べられている段落の最初の五字を抜き出せ。

--

問十 本文の内容に合うものを次のの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 議論することで視野は広がるが、答えを導くには自問自答しか方法はないのである。  
イ 周囲に憧れられるような大人がいないので、子どもたちは夢を持てないのである。  
ウ ジっくりと問題に向き合っていくと、いつかは解決策が見つかるものである。  
エ 十代のころに何度も失敗を経験することで、「個」の成長が促されるのである。

--

□ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。(四十点)

この部分は、著作権の関係で  
掲載できません。

受験番号

問一 ア ぱらぱらと I さ III を補うのに、最も適当な語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。  
イ ぽかんと ウ にやりと エ につこりと オ ぼつんと

問二 線部A 「胸をなでおろした」 B 「バツの悪そうな」はどのような心情を表している

問三 線部①「それだ！」について、  
（1）「それ」とはどのようなことか。本文中の語句を用いて、十五字以内で答えよ。

(2) (1) をすることで何ができると赤尾は思いついたのか。

最も適當なものを次の中から選び、記号で答えよ。  
ア ソーラーはフライハイ、こうもり開心ばよ、二思つて、二さ、非常二二、理解二二、放つて、感心二二。

今まで感じていたクラスの生徒たちの印象が大きく変わり、今後どうつきあつていけばよいか不安を感じている。慎吾が学校に来られなくなつたのは、担任である自分のせいだと生徒たちから教えられ、強く責任を感じている。

オウア　怒りから投げやりになつてゐる。  
喜びと悲しみが入り交じつてゐる。  
予想外のことによても驚いてゐる。

エイ　自信をなくし不安になつてゐる。  
嬉しさのあまり感極まつてゐる。

ア 結婚の際の衣装は、食事の方法など、夫婦の性質が現れることが多い。そこで、夫婦の性質を説明したものとして、最も適當なものを次のなかから選び、記号で答えよ。

イ アイ 普段は教師の前では良い子を演じていたが、本当の自分を見せることができないことに、いらだちを感じている。

問七  
——線部④「そんな才能」とはどのような才能か。解答欄に合うように、四十字以内で答えよ。

A vertical dashed line is positioned in the center of the page, extending from the top to the bottom. It is intersected by several horizontal dashed lines that create a grid-like pattern. The grid consists of approximately 12 horizontal lines spaced evenly apart.

才能。

問九 線部⑥「慎吾は大きく手を振った」とあるが、これは慎吾のどのような意志の表れか。慎吾の心情に触れて、四十字以内で説明せよ。

—— 線部⑤「泣いたらしいのが笑うらしいのがもろい」慎吾には「よくわからなかつた」とあるが、この時の慎吾の様子を説明したものとして、最も適當なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 三日ぶりに顔を合わせたクラスメイトに対して、どんな表情をするべきなのかわからず混乱している。

イ ばかにされて泣きたい気持ちもあるが、認められて嬉しい気持ちもあり、複雑な心境になつていてる。

ウ 自分が思い違いをしていたことが申し訳なく涙を流しそうになつたが、笑つてごまかそうとしている。

エ クラスマイトそれぞれの自分に対する思いやりに触れて、感動で胸がいっぱいになつていてる。

平成28年2月4日

受験番号

三 比叡山の貧しい僧は、夢の中で「仏のよいお告げ」を授かるとして鞍馬寺に参詣した。その百日目に夢の中で仏から「清水寺に参れ」と告げられた。清水寺に参詣して百日目の夜、「賀茂神社へ参つてお願ひせよ」と仏に告げられ、賀茂神社に参詣することにした。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二十点)

また、<sup>※1</sup>賀茂に参る。夢見ん見んと参る程に、百日といふ夜の夢に、「わ僧がかく参る、<sup>①</sup>いとほしければ、御幣紙、打撒<sup>※3</sup>の米ほど」の物、たしかに取らせん<sup>③</sup>と仰せらるると見て、うち驚きたる心地<sup>※7</sup>、いと心憂く、哀れにかなし。「所々参り歩きつるに、ありありでかく仰せらるよ、打撒のかはりばかり賜はりて何にかはせん、我が山へ帰り登らんも、人目恥ずかし、賀茂川にや落ち入りなまし」など思へども、またさすがに身をもえ投げず。<sup>※10</sup>いかやうに計らはせ給ふべきにかと、ゆかしき方もあれば、もとの山の坊に帰りてゐたる程に、知りたる所より、「もの申しさぶらはん」といふ人あり。「誰そ」とて見れば、白き長櫃<sup>※12</sup>を担ひて縁に置きて帰りぬ。いとあやしく思ひて、使ひを尋ねれど、<sup>※13</sup>大方なし。これをあけて見れば、白き米とよき紙とを一長櫃入れたり。<sup>⑤</sup>これは見し夢のままなりけり、<sup>⑥</sup>さりともどこと思ひつれ、こればかりをまことに賜びたる<sup>⑤</sup>と、いと心憂く思へども、いかがはせんと、この米をよろづに使ふに、ただ同じ多さにて尽くる事なし。紙も同じごと使へど、失する事なくて、<sup>※16</sup>いと別にきらきらしからねど、いと頼もしき法師になりてぞありける。

(『宇治拾遺物語』)

問一 賀茂・賀茂神社 <sup>※2</sup>夢見ん見ん：夢に賀茂神社のお告げを見よう見よう <sup>※3</sup>わ僧：おまえ  
御幣紙・打撒きの米：神官が祝詞をあげたりする際に使用する御幣を作るのに使う紙と、参拝するときに神前にまく米 <sup>※4</sup>ごへいし  
<sup>※5</sup>うち驚きたる心地：はつと目が覚めた気持ちは <sup>※6</sup>ありありて：あげくのはてに <sup>※7</sup>賜はりて：いただいて <sup>※8</sup>我が山：比叡山  
<sup>※9</sup>さすがに：そうはいうものの <sup>※10</sup>いかやうに計らはせ給ふべきにか：どうのようにお取り計らいくださるとするのか  
<sup>※11</sup>もの申しさぶらはん：もしもし。ごめんください <sup>※12</sup>長櫃：長方形で、ふたのある大きな入れ物 <sup>※13</sup>大方なし：まったく人の姿はない  
<sup>※14</sup>さりともどこと思ひつれ：いくらなんでもこれだけではないだろうと思ったが <sup>※15</sup>いかがはせん：どうしようもない  
<sup>※16</sup>いと別にきらきらしからねど：きわだつて人に立つというほどではないが

問一 線部①「いとほしければ」とは、「氣の毒なので」という意味であるが、賀茂神社の神が「氣の毒だ」と感じる理由は何か。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- A 御幣紙や打撒の米をたくさん授かりたいとひたすら願っているから。  
B 自分の努力で現実を打ち破ろうとせず神仏の力に頼っているから。  
C 神仏のお告げを授かるかうと思つてあちこちお参りしているから。

問二 線部②「いと心憂く、哀れにかなし」とは、「とてもつらく悲しい」という意味であるが、これは、比叡山の貧しい僧のどのようなことに対する気持ちか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- A 賀茂川に身を投げると告げられたこと。 <sup>イ</sup>数々の寺社を巡るように告げられたこと。  
B 期待はずれの物を授かる夢だったこと。 <sup>エ</sup>あきらめて比叡山へ帰る気にさせられたこと。

問三 線部③「打撒のかはりばかり賜はりて何にかはせん」の解釈として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- A 打撒の代わりのものを授かつたので、これで生計をたてよう。 <sup>イ</sup>数々の寺社を巡るようになされたこと。  
B 打撒の代わりのものを授かつたからには、何でもできるだろう。

問四 線部④「ゆかしき方もあれば」とは、「知りたい気持ちもあるので」という意味であるが、どのようなことを「知りたい気持ち」があるというのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- A 鞍馬寺の恵み <sup>イ</sup>比叡山の威力 <sup>ウ</sup>清水寺の願い <sup>エ</sup>賀茂神社の効力  
B 線部⑤「これは見し夢のままなりけり」とあるが、現実には、何を授かつたのか。文中から七字で抜き出せ。

問六 線部⑥「さりともどこと思ひつれ、こればかりをまことに賜びたる」とあるが、ここから僧のどのような心情が読み取れるか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- A 神様がどのように取りはからつてくださるのかと関心をもつていたが、何もなくて驚いた。  
B 夢で見た以上のものを授かるだろうと期待していたが、夢の通りだったの落胆した。

問七 夢の中でお告げを授かつた結果、比叡山の貧しい僧は結局どのような僧になつたか。文中から十字以内で抜き出せ。

問八 この本文を通して、筆者が伝えたいことはどのようなことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

A なほ心長く物語ではすべきなり。 <sup>イ</sup>夢を頼るはむなしきものなり。  
B 何事もありがたくいたゞく心を忘れなよ。 <sup>エ</sup>何事も神仏にのみ頼ることなけれ。